



## スクラップの行方

昨年の11月から上り始めたスクラップ価格は、下げを知らないまま、早7ヶ月目に入ろうとしています。これは、中国・インドを中心としたBRICs諸国での経済発展に伴う鋼材需要が旺盛で、世界の粗鋼生産量増大が、毎年1億tづつ増えているのが原因になっています。

これに付随して、**高炉の主原料である、鉄鉱石が前年度比65%のUP、原料炭については前年度比300%UPもの価格上昇の状況にあります。**

この為、日本の高炉では、上記の価格上昇プラスCO2の排出対策の事もあることから、スクラップの配合比率を上げています。

どれ位なのかと申しますと、2001年度600万tに対し2007年度は1280万tと、約2倍もの使用量になっているのです。

本来高炉で使うスクラップと言えば、丸特、新断だったのですが、一部の高炉では、4000馬力のシュレッダー機を導入し、今まで見向きもしなかったH2（弊社の特級）クラスを破碎し、不純物を除去して転炉投入するという新たな試みが始まっています。

近場の高炉でいきますと、JFE京浜がシャフト炉と言う物を導入し、これに投入するH2クラスのスクラップ使用量が年間50万tで、月平均4万1千~4万2千tにもなり、京浜地区に電炉が一つできたのと同じになります。今は試験運用中で、本格的な稼動は8月からとなる見込みです。

以上のような点から、高炉も鉄源確保の為、スクラップの使用量が増加し、この増加分が日本のスクラップ輸出量に影響し、輸出量が減少しています。

鉄源確保の状況は韓国も同様で、シュレッダー機こそ導入はまだしていませんが、スクラップの手当てに奔走しており、米屑の購入量を増加させていたりもします。（韓国では、国内のスクラップ発生量は日本ほどなく、輸入に頼るしかありません）

又、スクラップの輸出国であったロシアからも以前は購入してはいたのですが、ロシア国内の経済発展に伴い、ロシア国内での使用量増加の為、輸出量が激減しています。

米屑は、到着までの時間がかかる、ロシアからは物が出てこないとなると、どうしても手近な輸出国である日本に買い注文が入るといった状況が、この世界一高い日本のスクラップ相場を形成しているのです。

そしてこのことが、日本の景気に減速感が出ていながらもかわらず、今のスクラップ相場が上がり続ける要因となっているのです。

ではこの先はと申しますと、私個人の見解では、**相場は、まだ上がり続ける**と言う結論になります。

例年でいきますと、これからの夏場に向けては、電気使用量の制限などでスクラップの使用量も減り、荷あまり感から相場が下げへと動いていくのですが、今年は、先に書いたJFE京浜の本格的稼動や、その他高炉の購入量の増大、そして東京製鐵の田原工場の立ち上がり、韓国での新たな電炉も立ち上がることなどから、トータルで見ると、前年比増となり、これが相場の下支えになると思われます。

先日行なわれた、関東鉄源の入札結果を見てみましても、6月積み予定の入札結果は、先高を占めました。

以上の観点から、「相場が上がり続ける」と言う結論になった次第です。

懸念材料としては、今現在のスクラップの価格帯は、過去に誰も経験した事が無い状況であり、これによる鋼材価格の高騰が、経済に与える影響に、最終的にはマイナスにならなければいいのですが・・・。

高炉・電炉各社は、増収ではあるものの、原材料の値上がりや、製品価格転価の遅れからから、最終的には減益となってしまっています。

又、金属の盗難等の増加も懸念材料の一つとなっています。

価格が高いことで良いことは、川原や空き地に不法投棄されていた空き缶やスクラップなどが、きれいに片付けられていくことではないでしょうか。（価格のつかないその他のゴミは置き去りのままとなっていますが・・・）

## コラム

**先日、中国の四川省で、世界最大級と言われる大地震が発生しました。この地震による破壊力は、阪神淡路30倍だそうで、その規模の大きさに驚かされます。地震の多い日本、関東直下型もそろそろ来るのでしょうか？**